

わくわく感 充実の街に

託す1票
広島県知事選
2025

若者の人口流出に課題を感じ、在学中は定住につながる街の魅力向上を研究していた。ただ、約60人いた卒業生のうち6割ほどは広島県外で就職した。正直驚いた。自分の身の回りの現実としてここまで多いのかと。

2021年4月開学の県立観音大（広島市中区）1期生。岩国市出身

若者減少



「水都広島」社長

木村侑平さん(23) 広島市中区

で、卒業と同時に大学の同級生と広島市内の川辺の活性化に取り組む株式会社「水都広島」を起業した。

原点は学生時代に体験

はこうはいかないだろう。都市機能が整っているが、自然も豊かな広島は、心地よく魅力的な街だ。

転出者が転入者を上回る「転出超過」が続く広島。海外との転出入を除くと24年は1万711人に上り、うち20代が62%を占める。

心地よい一方、わくわく感の足りなさが流出の要因ではないか。あんなところで面白いことをや

っている、あの人が新しい事業に挑戦しているみたい。憧れが若者を引きつける。特にスタートアップ企業への支援はもっと欲しい。

自身は起業後、市中心部の川で水陸両用の乗り物「ホーバークラフト」を運航する構想のほか、川辺一帯のウォーキングを促すアプリの開発などを進めている。

新しいことをしたいと、熱い思いを持つ人はたくさんいる。人口流出を止めるためには、民間の力をもっと活用して街の魅力を高めてほしい。明るい未来を語れるリーダーを期待したい。（聞き手は新谷枝里子）

◇ 広島県知事選が23日告示、11月9日投票される。16年ぶりに交代する新たな県のリーダーに有権者は何を望むのか。人口減少や医療・福祉、経済対策などをテーマに、1票に託す思いを聞く。